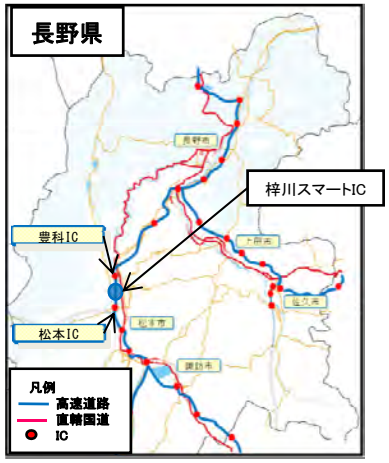
④医療貢献　　長野県　　中央自動車道　長野線　梓川（あずさがわ）スマートIC　　平成22年11月27日開通

梓川スマートIC設置により、地域医療のサービス向上

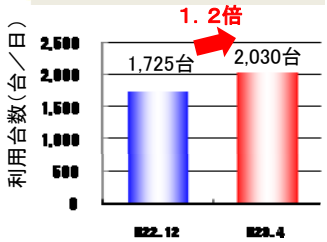
・スマートIC開通後、三次救急医療等への迅速な患者の救急搬送が可能（救急搬送利用は**約５ヶ月間で３７件**）
・県立こども病院への搬送時間が８分短縮（対象エリア人口の約３割の方への市民サービス拡大）

出展：松本市幹線道路課　　H23.6.7現在



出典：google

開通後の利用台数の推移
・梓川スマートＩＣの開通１ヶ月後と比べ約１．２倍に増加



～梓川スマートIC利用→
県立こども病院救急搬送～
松本広域連合消防本部管轄
対象エリア：松本市、塩尻市（楢川地区除く）、山形村、朝日村の合計人口：約32万人

年少人口（0～14歳）　　：約4．5万人（14%）
出産年齢人口（15～49歳）：約6．7万人（21%）
出典：長野県統計調査、各市・町HPより

新たな扉
梓川スマートIC27日開通
－中－
◇大きい「10分短縮」◇
梓川スマートインターチェンジ（スマートIC）が県立こども病院に向かうと、豊科ICからの場合に比べて10分短縮できる。信州大学付属病院に行く際も、松本、豊科の両ICを使うより、いずれも10分早い。関係機関でつくる梓川スマートIC地区協議会（会長・宮沢敏安塩尻市長）はこう強調し、「救急医療サービスの向上」を地域効果の一つに掲げる。
高速道路による救急搬送は、出入りできる場所が限られる平面（時間

救急対応と渋滞緩和

迅速な患者搬送可能に

短縮効果は確かにある。例えば、上り線に平成20年に設けられた「西豊バス停乗降車専用入路」を使った場合、松本市内西地区の多くの地域で、医療機関収容までの時間が数分短くなった。高速道路を使う救急搬送は一般道よりも車の走行が安定し、患者の負担が軽くなる効果もあるという。
さらに、交通事故などを予約診療がふさがれ、救急車が定員ICで一般道路に降りられないといった本来の事態を想定すると、高速道路に出入りできる場所が多い方がいい。スマートICの活用で、臨機応変な対応が求められる救急搬送ルートの選択肢が増える。
松本広域消防局の倉田侍蔵次長は「現場では一分一秒を争う。スマートICを活用しないという手はない」と話す。利用には料金がかかるが、ETC（ETC）が必要なことに対応して、救急車などの緊急車両への車載機取り付けを検討している。
◇難しい？渋滞解消◇
21年の実績では、松本IC（1日に出入りした車は約1万9600台、豊科ICは約1万5300台に上った。ともに観光利用が増える8月が多く、松本ICでは高地に向かう車が多く、例えば白樺湖方面から最寄りの一般道の渋滞区間を避けるなどの効果もあるという。
ビジョンシステム社せず目的の観光地に向かう姿も見受けられる。中日本高速道路によると、多くの要望が関係する交通問題の予測は難しい。担当者は「松本IC、豊科ICを出入りする車の数が、すぐに大きく変わってくるとは考えづらい」としつつも長期的な変化を見極める考えだ。
西側が、梓川スマートICの開通で緩和されるのか。松本ICと豊科ICの間には、目立った観光地はなく、あえてスマートICを使う理由が見つけにくい。一方で上高地、安曇野方面に向かう観光客が梓川スマートICで高速道路を降り、カーナビなどを使って迂回することもある。
（小坂　功）

梓川スマートＩＣと県立こども病院は至近距離にある（右上がこども病院、左下が上り線のスマートＩＣ周辺）

H22.11.17
「市民タイムス」紙面より